

三重県病院事業 中期経営計画  
(平成25年度～平成27年度)

平成25年度の実績と課題

平成26年5月  
三重県病院事業庁

# 目 次

	頁数
はじめに . . . . .	1
<b>第1章 ころの医療センター</b>	
平成25年度の取組成果と残された課題（総括） . . . . .	2～3
平成25年度の目標に対する成果と課題	
1 重点的な取組	
（1）病院機能の再編・推進 . . . . .	4
2 役割及び機能の充実に向けた取組	
（1）精神科医療の中核病院としての取組 . . . . .	4～5
①精神科救急・急性期医療の推進	
②県全体の医療水準の向上に寄与する研修機会の提供	
③人材の確保・育成	
（2）地域生活支援体制の充実に向けた取組 . . . . .	5～7
①地域移行支援の体制整備	
②地域精神保健福祉の連携体制の強化	
③精神疾患・障がいにかかる普及啓発	
（3）高度・先進医療の取組 . . . . .	7～8
①精神科早期介入・予防	
②アルコール依存症治療	
③認知症治療	
④重度療養患者に対する治療	
3 経営の健全化及び改善に向けた取組	
（1）経営の健全化に向けた取組 . . . . .	9
①病院機能の再編・推進を踏まえた健全経営	
②外来収益	
③入院収益	
（2）業務改善に向けた取組 . . . . .	9～10
①患者や家族の皆さんの視点に立った医療の提供	
②医療安全対策	
③患者満足度の向上	
<b>第2章 一志病院</b>	
平成25年度の取組成果と残された課題（総括） . . . . .	11～12
平成25年度の目標に対する成果と課題	
1 重点的な取組	
（1）地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり . . . . .	13～14

	頁数
<b>2 役割及び機能の充実に向けた取組</b>	
(1) 家庭医を中心とした地域医療の取組 . . . . .	14～16
①家庭医療	
②地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり	
③予防医療	
④在宅療養支援	
⑤救急医療	
(2) 地域医療を担う人材の教育 . . . . .	16～17
①家庭医の育成	
②看護師等の育成	
③医療従事者の能力向上	
(3) 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究 . . . . .	17
<b>3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組</b>	
(1) 経営の健全化に向けた取組 . . . . .	17～18
①収支改善	
②収益確保	
③費用縮減	
(2) 業務改善に向けた取組 . . . . .	18～19
①医療情報システムの導入	
②休止中の施設活用の検討	
③患者満足度の向上	
<b>第3章 県立病院課</b>	
平成25年度の取組成果と残された課題（総括） . . . . .	20
平成25年度の目標に対する成果と課題	
<b>1 重点的な取組</b>	
(1) 医師師、看護師の確保 . . . . .	21
<b>2 役割及び機能の充実に向けた取組</b>	
(1) 戦略的な経営の推進 . . . . .	21
(2) 人材の確保・育成 . . . . .	21～22
①医師の確保	
②看護師等の確保・定着	
③職員の専門性の向上	
<b>3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組</b>	
(1) 経営の健全化及び業務改善 . . . . .	22～23
①病院の経営面の改善・支援	
②志摩病院指定管理者の指導・監督	
(2) 県立病院改革にかかる取組 . . . . .	23
用語解説 . . . . .	24～26

## はじめに

「三重県病院事業 中期経営計画（平成25年度～平成27年度）」については、その着実な推進を図るため、計画期間中の各年度における具体的な取組を掲げる「年度計画」を策定することとしています。

「平成25年度 年度計画」については、中期経営計画の初年度にあたることから、その実現に向けて着実にスタートしたうえで、中間年度である平成26年度の取組に確実かつ効果的につなげていくことを念頭に置いて策定しました。

平成25年度は、この計画に基づき、こころの医療センターにおいては、精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、家庭医を中心とした地域医療の取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を実施するとともに、経営の健全化に向けて取り組んできました。

また、志摩病院については、指定管理者である公益社団法人 地域医療振興協会により、診療体制の段階的な回復を図りつつ、運営を行ってきました。

平成26年度以降の病院事業の運営にあたっては、平成25年度の各病院の取組成果や課題を踏まえたうえで、引き続き安全・安心な医療を県民の皆さんに提供できるよう取り組んでいきます。

## 第1章 ころの医療センター

### 平成25年度の取組成果と残された課題（総括）

精神科救急医療などの政策的医療やアルコール依存症治療、認知症治療、精神科早期介入・予防などの先進的医療に取り組むなど、三重県の精神科医療の中核病院としての役割を果たしてきました。

国の医療政策において、「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という今後の精神科医療の方向性が示されている中、あるべき精神科医療の姿をめざして、入院機能の再編やアウトリーチサービスの充実など、病院機能の再編を進めてきました。

#### 1 病院機能の再編・推進

入院機能については、平成25年1月に1病棟（52床）を休棟し、稼働病床を348床とするなど、機能縮小を図りつつ、平成25年度に外来・相談機能の充実を図ることを目的に新たな外来棟の整備を行いました。また、訪問看護等のアウトリーチサービスについても、訪問看護体制を3人から4人にするなど体制の充実などを図りました。今後も、患者の病状や生活環境等を十分考慮しつつ、地域生活支援を進めていく必要があります。

#### 2 精神科医療の中核病院としての取組

- (1) 精神科救急医療については、夜間・休日における受入体制を整備し、特に自傷・他害の恐れが高い措置診察の要請（47件）に対しては、100%の受入れを行いました。今後も、急性期医療の充実に重点をおいた取組により、患者の早期の地域移行を進めていく必要があります。
- (2) 本県における精神科医療の中核病院として、県内の精神科医療水準の向上を図るため、研修医及び看護師やコメディカル職種の研修生・実習生（2,067人）について積極的に受入れました。また、精神保健指定医資格や看護の専門性の向上を図るための認定看護師資格などの取得に取り組みました。精神科医療における人材の確保・育成のため、引き続き、研修の受入れや専門性の向上に向けた取組を進める必要があります。

#### 3 地域生活支援体制の充実に向けた取組

- (1) 地域精神保健福祉の連携体制の強化を図るため、「地域精神保健医療体制検討会」の設置に向け、保健所等関係機関と調整を図りましたが、平成25年度の設置には至りませんでした。引き続き、早期の設置に向けて関係機関と調整を進めていく必要があります。
- (2) 精神障がい者が地域で生活していくためには、住民の精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解が不可欠であることから、出前講座「ころしつとこセミナー

一」(18件)を開催するとともに、地域住民との交流の場である「こころしっこ祭」などを開催しました。

企業等においても精神障がい者や精神疾患に対して正しい理解が得られるように、セミナー等への医療スタッフの派遣などにより積極的に普及啓発に取り組んでいく必要があります。

#### 4 高度先進医療の取組

- (1) 精神科の「早期発見・早期支援・早期治療」の拠点として、「ユース・メンタルサポートセンターM I E (YMSC-MIE)」の活動を通じて、精神疾患に悩む若者に対して支援を行いました(206件)。症状の重症化を防止するためには、早期発見・早期治療が重要であることから、学校等の教育機関等と緊密に連携し、積極的に支援していく必要があります。
- (2) アルコール依存症治療専門病棟を有する病院として、入院患者を受入れるとともに、外来通院治療やアルコールデイケアの提供を行いました。また、「三重県飲酒運転<sup>ゼロ</sup>をめざす条例」に基づき、平成26年1月に飲酒運転違反者の診断等を行う指定医療機関に指定されました。引き続き、アルコール依存症治療に積極的に取り組むとともに、県民の皆さんに対する普及啓発等を行うなど、飲酒運転ゼロを実現するための取組を進める必要があります。

#### 5 経営の健全化に向けた取組

- (1) 平成25年度決算では、経常収支が平成24年度に比べ、大きく減少しました(H24年度125,731千円→H25年度2,956千円)。  
これは、診療体制が一時的に縮小したことに伴い、入院患者数が大きく減少したことによるものです。今後は、診療体制の回復を図るとともに、適切な病床運用を通じた病床回転率の向上等により入院収益を確保し、平成26年度の診療報酬改定に的確に対応するなど、経営の健全化を図っていく必要があります。
- (2) 地域連携の取組等により、紹介患者の積極的な受入れや各種医療相談等の充実を図りました。今後も、アウトリーチサービスの拡充やデイケアの充実を図ることにより、外来患者数及び外来収益の増加につなげていく必要があります。また、新たに整備した外来棟の運用により、外来・相談機能をさらに拡充していく必要があります。

## 平成25年度の目標に対する成果と課題

### 1 重点的な取組

#### (1) 病院機能の再編・推進

これまで、病院機能の再編・推進を進めてきた結果、平成25年1月に1病棟（52床）を休棟するとともに、平成25年度には、新たな外来棟の整備による診療室・相談室の拡充（17室→22室）や、訪問看護実施体制の整備による訪問看護等アウトリーチサービスの充実に取り組んできました。これらの取組の結果、訪問看護件数は前年度に比べ大幅に増加（H24年度 2,823件→H25年度 3,751件）し、目標を達成しました。

訪問看護等のアウトリーチサービスや、作業療法、デイケアといった日中活動支援に対するニーズは高いことから、ニーズに対応するための体制整備等を引き続き進めていく必要があります。



新たに整備した外来棟

目標項目	H25 目標	H25 実績
訪問看護件数（件）	3,750	3,751

### 2 役割及び機能の充実に向けた取組

#### (1) 精神科医療の中核病院としての取組

##### ① 精神科救急・急性期医療の推進

三重県精神科救急医療システムの支援病院として、休日・時間外患者など救急患者の受入れに対応するとともに、自傷・他害のおそれが高い措置診察の要請（47件）に対しては、100%の受入れを行いました。これらの取組の結果、精神科救急患者数は目標を達成しました。

なお、退院患者の寛解率が69%となるなど、患者の円滑な社会復帰に向けて、一定の成果を上げることができました。

救急・急性期医療の充実に向けるため、急性期病棟機能を高めていくための検討や人材の育成及び医療スタッフの確保を進める必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
精神科救急患者数（人）	210	221

## ② 県全体の医療水準の向上に寄与する研修機会の提供

精神科病院、看護学校等からの依頼に対応し、初期研修医、実習生（2,067人）の受入れを行うことができましたが、1病棟の休棟の影響により、受入対象者の調整を行ったことから、目標を達成することができませんでした。

県内の精神科医療水準の向上のため、研修医及び看護師やコメディカル職種の研修生・実習生について、引き続き積極的に受入れていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
看護実習等受入人数（人）	2,350	2,067

## ③ 人材の確保・育成

職員の専門性の向上を図るため、精神保健指定医の資格取得（1名）を進めるとともに、県立看護大学に看護職員を派遣し、認定看護師の受験資格を取得（1名）しました。

また、院内全職員を対象とした研修（精神医学基礎講座）を開催し、リカバリーの考え方についての知識向上を図るとともに、平成24年度に県立看護大学と締結した連携協定に基づき、同大学への講師派遣や同大学教員によるリカバリーに関する研修会の開催、専門図書の共有化等を行いました。

精神保健指定医や看護の専門性の向上を図るための専門・認定看護師などの確保・育成に取り組むとともに、院内研修センターによる人材育成研修の実施、県立看護大学との連携協定に基づく取組、三重大学や医療機関との交流・連携の推進など、引き続き、精神科医療スタッフの一層のスキル向上を図っていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
人材育成研修開催数（回） （院内研修センター実施分）	1	1

## （2）地域生活支援体制の充実に向けた取組

### ① 地域移行支援の体制整備

病院、市町、相談支援事業所、障がい福祉サービス事業所などの関係機関が連携し、退院及び退院後の地域生活を支える事業「精神障がい者地域移行・地域定着支援事業」の活用などにより、目標達成はできなかったものの、診療報酬上の基準（4人以上）を上回る7名の長期入院患者の地域移行を進めることができました。

長期入院患者の社会復帰を促進するとともに、地域生活を行いながら適切



な治療支援を行うためには、訪問看護やデイケア活動等の充実が必要であることから、これらの取組を積極的に行っていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
長期入院患者（5年超）退院数（件）	10	7

## ② 地域精神保健福祉の連携体制の強化

地域精神保健医療体制検討会の設置に向け、保健所等関係機関と調整を図りましたが、構成員の範囲等の調整に時間を要したことから、設置には至りませんでした。

他地域の動向を注視しつつ、早期の設置に向けて関係機関と調整を進めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
地域精神保健医療体制検討会開催数（回）	1	0

## ③ 精神疾患・障がいにかかる普及啓発

精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるための出前講座「こころしっとこセミナー」を開催し、目標には届かなかったものの、企業や団体の様々な講師派遣要望に応えることができました。また、県民に開かれた病院をめざし、地域住民との交流の場づくりとして、「こころしっとこ祭」を開催し、多数の県民の参加（約300人）を得ることができました。

職場等において、うつ病に罹患する人が年々増加しているなかで、うつ病をはじめとする気分障害は、自殺の危険因子にもなっていることから、社会問題化しており、企業等からのセミナー実施に対するニーズは、今後ますます高まっていくものと考えています。引き続き、セミナーへの講師派遣について積極的に行うとともに、広報の方法についても検討していく必要があります。



こころの市民公開講座  
平成25年6月29日開催

目標項目	H25 目標	H25 実績
こころしっとこセミナー件数 (件)	21	18

### (3) 高度・先進医療の取組

#### ① 精神科早期介入・予防

精神科における「早期発見・早期支援・早期治療」の拠点として「ユース・メンタルサポートセンターMIE (YMSC-MIE)」の運営を通じて、精神疾患に悩む若者やその家族等に対して支援を行った結果、着実に件数は増加し (H24年度 157 件→H25年度 206 件)、目標を達成することができました。

また、中学校 (4 校) や高等学校 (3 校) などと連携し、教職員や生徒、保護者を対象とした啓発事業・講義の実施や関係者で構成される連絡会議を開催するとともに、県立看護大学との連携による県民を対象としたシンポジウム「若者のメンタルヘルス・ファーストエイド」の開催などの取組を行いました。

引き続き、教育機関等関係機関と連携して、YMSC-MIE を運営するとともに、一人でも多くの精神疾患に悩む若者の支援が行えるよう、情報提供を積極的に行っていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
早期介入対応件数 (件)	165	206

#### ② アルコール依存症治療

アルコール依存症治療病棟を有する病院として、専門研修を履修したスタッフによるアルコール依存症治療 (入院:H24年度 28.5 人/日→H25年度 35.6 人/日、外来:H24年度 21.0 人/日→H25年度 20.7 人/日) を提供した結果、アルコール病棟入院患者数は目標を達成することができました。

また、平成26年1月に「三重県飲酒運転<sup>ゼロ</sup>をめざす条例」に基づく指定医療機関としての指定を受け、飲酒運転違反者の受診にかかる体制を整えました。

さらに、「飲酒運転<sup>ゼロ</sup>をめざす推進運動の日」(12月1日)に津市内で啓発活動を実施するとともに、平成26年1月には「アルコールと健康を考えるフォーラム」を開催し、一定量以上のアルコール摂取が自殺の危険性を高めることなどについての啓発等に取り組みました。

充実したアルコール依存症治療プログラムを提供するため、担当スタッフのスキル向上に努めるとともに、入院治療、外来、アルコール専門のデイケアの実施など医療ニーズに対応した取組を進めていく必要があります。



アルコールと健康を考えるフォーラム  
平成 26 年 1 月 11 日開催

目標項目	H25 目標	H25 実績
アルコール病棟入院患者数 (人/日)	32	35.6

### ③ 認知症治療

もの忘れ外来の実施や認知症治療に係るパンフレットの配布などにより、認知症治療病棟入院患者数の増に取り組みましたが、目標を達成することができませんでした (H24 年度 41.2 人/日→H25 年度 36.7 人/日)。

また、「認知症疾患医療センター」として、認知症相談 (H24 年度 314 件→H25 年度 355 件) 及び地域住民や患者家族等を対象とした啓発・研修などに取り組みました。

引き続き、担当スタッフのスキル向上に努めながら認知症に対する専門的医療を提供するとともに、本県における認知症治療や相談事業の拠点としての役割を担っていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
認知症治療病棟入院患者数 (人/日)	43	36.7

### ④ 重度療養患者に対する治療

重度療養患者に対する治療の充実を図るため、先進地調査を実施するとともに、より有効な治療方法等について検討を進めるなど、重度療養患者医療体制の構築に向けて取り組んでいるところです。

引き続き、重度療養の治療体制や他病院からの受入体制について検討していく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
重度療養患者医療体制構築	検討	検討

### 3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組

#### (1) 経営の健全化に向けた取組

##### ① 病院機能の再編・推進を踏まえた健全経営

診療体制の一時的な縮小から入院患者数が減少し、それに伴って入院収益が減少したことにより、経常収支は平成24年度決算に比べて、大きく減少しました（H24年度 125,731千円→H25年度 2,956千円）。

今後は、診療体制の回復を図るとともに、新たに整備した外来棟の有効活用、再編後の病床の適切な運用などによる収益の確保や、平成26年度の診療報酬改定への的確な対応など、経営の健全化を図っていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
経常収支比率 (%)	100.7	100.1

##### ② 外来収益

外来診療機能の拡充に向け、外来棟の増築工事を実施し平成26年3月に完成し、同年4月から運用を開始しました。外来患者数については、診療体制が一時的に縮小したことなどにより、目標達成に至らず、前年度実績から若干下回りました（H24年度 257人/日→H25年度 253人/日）。

外来収益を増加させるためには、新規患者を増やすことが重要であり、そのために紹介患者の積極的な受入れを可能とする院内体制の見直しを行い、他の医療機関等に対してその情報提供を行う必要があります。

また、デイケアや作業療法のプログラムについても、患者ニーズをより反映したものへ見直す必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
外来患者数 (人/日)	262	253.0

##### ③ 入院収益

一時的に診療体制が縮小したことにより、入院患者数が減少し、それに伴い入院収益が減少しました。

各病棟の機能が効果的に発揮できるよう、患者の症状等に応じて、適切な病床運用を行うことにより、病床稼働率の向上や診療報酬単価の向上につなげるなど、入院収益の確保に努める必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
延べ入院患者数 (人)	115,340	107,910

#### (2) 業務改善に向けた取組

##### ① 患者や家族の皆さんの視点に立った医療の提供

望ましい医療倫理を確立し維持していくため、医療倫理委員会を開催し、その中で職員倫理宣言の見直しや、必要となる職員研修の内容検討などの取



組を進めました。

引き続き、院内全体の医療倫理の向上に向けた取組を推進していく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
医療倫理委員会開催数 (回)	1	9

## ② 医療安全対策

医療安全対策の充実を図るため、院内研修会を複数回開催し、職員の医療安全に関する意識や対応能力の向上に努めました。

引き続き、日々の業務の見直しや研修を通じて、医療安全対策の一層の充実を図る必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
医療安全研修参加率 (%)	81.5	82.4

## ③ 患者満足度の向上

接遇に関する院内研修を実施するとともに、施設・設備面の改善などを実施しましたが、患者アンケートでの患者満足度は、前年度を下回る結果となり、目標を達成することができませんでした(H24年度 73.1%→H25年度 71.3%)。

患者アンケート結果の分析を進めるとともに、声の箱制度や情報公開、苦情対応など、これまでの取組内容を評価して、課題を明確にし、その改善を図るなど、患者満足度の向上につなげていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
患者満足度 (%)	82.0	71.3

## 第2章 一志病院

### 平成25年度の取組成果と残された課題（総括）

幅広い臨床能力を有する家庭医を中心として家庭医療を実践するとともに、研修医や医学生の受入れを積極的に行うなど、人材育成や家庭医療、地域医療、医療教育に関する実践的で先進的な研究を進めてきました。

#### 1 地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくりを進めるため、医師や看護師等の医療関係者、ケアマネージャーや社会福祉士等の福祉関係者、保健師等の保健関係者など、関係者が集う「多職種連携ワークショップ2013」の開催など顔の見える関係づくりに取り組みました。

引き続き、多職種が連携した取組を進めるとともに、地域住民の皆さんの参画について検討を進める必要があります。

#### 2 家庭医を中心とした地域医療の取組

(1) 過疎化、高齢化が進む地域では、身近な病気をはじめ、けがや心の悩みへの対応、入院医療、病気の予防などについて、幅広い総合的な診療が求められていることから、幅広い臨床能力を有する家庭医を中心とした医療サービスを提供しました。この結果、平成25年度は予防医療受診者等を含む外来患者数の目標を達成するとともに、入院患者数についても、前年度と比較し大幅に増加しました。今後も、家庭医を中心とした地域医療の取組を進める必要があります。

(2) また、過疎化、高齢化が進むなか、在宅医療に対するニーズが高まっています。このことから、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションなど在宅医療の提供に取り組み、平成25年10月からは薬剤師による訪問薬剤指導を実施しました。今後も引き続き、患者のニーズを的確に把握し、在宅医療の提供にに取り組む必要があります。

(3) 初期救急医療を担う医療機関として、24時間365日対応できる体制を維持するとともに、白山消防署とのホットラインの開設など、救急患者の一層の受入れに対応できる取組を行った結果、救急患者受入件数が1,000件を超え目標を達成することができました。

さらに、津市消防本部、白山消防署、美杉分署との定期的な合同勉強会の開催(2回)や子どもメディカルラリー、健康教室の共催などを通じて、消防機関との連携強化を図りました。

引き続き、救急患者の受入れや消防機関との連携強化に取り組む必要があります。

### 3 地域医療を担う人材の教育

地域医療を担う医師の不足に対応するため、家庭医の育成について、全国に先駆けて取り組んでいる三重大学医学部と連携し、初期研修医（12人）、医学生（36人）を受入れるとともに、後期研修医（4人）を受入れました。また、地域において家庭医療を推進していくためには、家庭医だけでなく地域看護に取り組む意欲のある看護師等が必要なことから、看護師等の養成機関と連携し、実習生（24人）の受入れを行いました。引き続き、研修医、医学生、看護実習生等の受入れを積極的に行うなど、医療従事者の育成支援に取り組む必要があります。

### 4 経営の健全化に向けた取組

- (1) 幅広い臨床能力を有する家庭医を中心として、家庭医療を実践した結果、平成25年度は、入院患者数が前年度実績を大きく上回りました（入院：H24年度 27.2人/日→H25年度 35.7人/日）。地域における医療ニーズを踏まえ、必要とされる医療サービスを継続的に提供していく必要があります。
- (2) 収益確保を図るため、院内において「診療報酬検討会」を定期的を開催（12回）しました。また、費用縮減を図るため、診療材料等の適正な管理や経費節減に取り組みました。今後も、健全な経営を進めるため、収益の確保や費用の縮減に積極的に取り組む必要があります。

## 平成25年度の目標に対する成果と課題

### 1 重点的な取組

#### (1) 地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

医師や看護師等の医療関係者、ケアマネージャーや社会福祉士等の福祉関係者、保健師等の保健関係者などの多数の参加を得て、「多職種連携ワークショップ2013」や「多職種連携顔の見える会」(2回)、「見える事例検討会ファシリテーター養成講座」など多職種が連携して地域包括ケアを推進する事業を三重大学大学院医学系研究科の家庭医療学分野等と連携して実施しました。これらの取組の結果、目標を達成することができました。

引き続き、多職種が連携した取組を進めるとともに、地域住民の皆さんの参画について検討を進める必要があります。

#### 主な取組の概要

##### ➤多職種連携ワークショップ2013

開催日 : 平成25年8月3日(土) 10:00~17:30

参加者数: 86名(医師、歯科医師、看護師、ケアマネージャー、介護福祉士等)

内容: ワークショップ、情報交換会、有識者による講演

##### ➤多職種連携 顔の見える会

開催日 : 平成25年10月28日(月) 19:30~21:00

参加者数: 73名(医師、歯科医師、看護師、ケアマネージャー、介護福祉士等)

内容: 有識者による講演、講演の内容を踏まえた意見交換

##### ➤見える事例検討会ファシリテーター養成講座

開催日 : 平成26年1月11日(土)、12日(日)

参加者数: 32名(医師、看護師、保健師、ケアマネージャー等)

内容: 支援困難な事例について、多職種で事例の課題の洗い出しや支援方法を検討



多職種連携ワークショップ2013  
平成25年8月3日開催



見える事例検討会ファシリテーター養成講座  
平成26年1月11日開催



目標項目	H25 目標	H25 実績
地域に最適な医療の体制づくり参加機関数(者)	11	11

## 2 役割及び機能の充実に向けた取組

### (1) 家庭医を中心とした地域医療の取組

#### ① 家庭医療

三重大学医学部の協力も得ながら家庭医の診療体制を充実することにより、病気の治療だけでなく、予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスの安定的な提供に取り組みました。また、病院のホームページに病院の取組をトピックスとして掲載するなど、地域住民の皆さんなどに対し、情報提供を積極的に行いました。これらの取組の結果、家庭医療等外来患者数の目標を達成することができました。

今後も、家庭医を中心とした、全人的な医療サービスの安定的な提供に努める必要があります。



一志病院ホームページ「トピックス」

目標項目	H25 目標	H25 実績
家庭医療等外来患者数(人/日)(予防医療受診者等を含む。)	105	105.4

#### ② 地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

医師や看護師等の医療関係者、ケアマネージャーや社会福祉士等の福祉関係者、保健師等の保健関係者などの多数の参加を得て、「多職種連携ワークショップ2013」や「多職種連携顔の見える会」(2回)、「見える事例検討会ファシリテーター養成講座」など多職種が連携して地域包括ケアを推進する事業を三重大学大学院医学系研究科の家庭医療学分野等と連携して実施しました。これらの取組の結果、目標を達成することができました。

引き続き、多職種が連携した取組を進めるとともに、地域住民の皆さんの参画について検討を進める必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
地域に最適な医療の体制づくり参加機関数(者)【再掲】	11	11

### ③ 予防医療

住民健診やがん検診、人間ドック等による予防医療に取り組むとともに、住民の皆さんの健康管理に対する意識啓発の場として、感染症対策や救急医療に関する健康教室等(21回)を開催し、さらに、住民の皆さんからの依頼による出前講演(9回)を実施しました。

目標については、がん検診の受検者数は増加したものの、住民健診の受診者数が減少したことから、達成することができませんでした。

引き続き、予防医療の実践と健康管理に対する意識啓発に取り組む必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
住民健診・がん検診受検者(人)	1,250	1,196

### ④ 在宅療養支援

訪問診療(490人)、訪問看護(2,104人)、訪問リハビリテーション(586人)など在宅医療の提供に取り組み、平成25年10月からは薬剤師による訪問薬剤指導(39人)を開始しました。こうした在宅療養支援に対するニーズは高く、目標を達成することができました。

今後も、地域の診療所や介護施設、保健師やケアマネージャー等と連携し、在宅療養支援に取り組む必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション延べ患者数(人)	3,210	3,219

### ⑤ 救急医療

初期救急医療を担う医療機関として、24時間365日対応できる体制を維持するとともに、白山消防署とのホットラインの開設など、救急患者の一層の受入れに対応できる取組を行った結果、救急患者受入件数の目標は達成することができました。

さらに、津市消防本部、白山消防署、美杉分署との定期的な合同勉強会の開催(2回)や子どもメディカルラリー、健康教室の共催などを通じて、消防機関との連携強化を図りました。

引き続き、救急患者の受入れや消防機関との連携強化に取り組む必要があります。



津市消防本部等との共催による健康教室  
平成 25 年 12 月 10 日開催



津市消防本部等との合同勉強会  
平成 25 年 12 月 16 日開催

目標項目	H25 目標	H25 実績
救急患者受入件数 (人) (救急車搬送患者を含む。)	966	1,065

## (2) 地域医療を担う人材の教育

### ① 家庭医の育成

家庭医（総合診療医）育成拠点施設として、初期研修医（12人）、医学生（36人）を受入れるとともに、後期研修医（4人）を受入れるなど、家庭医の育成に取り組みました。受入人数の目標は、研修依頼病院が当初予定の3か所から5か所に増えたことなどにより達成することができました。

今後も、三重大学と連携し、当院をフィールドにした実践的な研修を行うなど、家庭医の育成に積極的に取り組む必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
初期研修医・医学生受入人数 (人)	43	48

### ② 看護師等の育成

地域看護の実践を通じて一人ひとりの意識の向上を図るとともに、三重大学や三重県看護協会、県立白山高校など、看護師等の養成機関と連携し、実習生（24人）の受入れを行うなど、地域看護に関心を持つ看護師等の育成支援に取り組みました。

看護実習等については、養成機関等からの依頼を全て受入れ、目標を達成することができました。

今後も、関係機関と連携を密にし、看護師等の育成に向けた取組を進めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
看護実習等受入率 (%)	100	100

### ③ 医療従事者の能力向上

専門的な研修等に関する情報を収集し提供するとともに、勤務シフトの考慮や院内研修会の開催回数を増加させるなど、学会、研修等に参加しやすい環境づくりに努めた結果、全職員が学会、研修、カンファレンス等に参加し、目標を達成しました。

また、病院の理想像等を検討する院内組織である「夢プロジェクト」において、地域医療に取り組む医師の講演会を開催（2回）し、地域医療に取り組む姿を学びました。

今後も、医療従事者の能力向上に向けた取組を進めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
学会、研修、カンファレンス等の参加率 (%)	100	100

### (3) 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究

院内の「研究やろう会」の開催（6回）等を通じ、研究に対する意欲の醸成、体制の整備に努めた結果、学会等での研究発表（8件）や学術雑誌等への論文発表（12件）を行うなど、目標を大きく上回ることができました。

今後も、家庭医療、地域医療、医療教育に関する先進的な研究の実践・発信に向けた環境づくりに取り組む必要があります。



全国自治体病院学会における発表  
平成 25 年 10 月 18 日開催

目標項目	H25 目標	H25 実績
学会発表・論文発表件数（件）	5	20

## 3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組

### (1) 経営の健全化に向けた取組

#### ① 収支改善

幅広い臨床能力を有する家庭医を中心として家庭医療を実践した結果、平成 25 年度は、入院患者数が前年度実績を大幅に上回り（入院：H24 年度 27.2 人/日→H25 年度 35.7 人/日、外来：H24 年度及び H25 年度 90.4 人/日）、安定



した収益の確保により、目標を達成することができました。

今後も、地域における医療ニーズを踏まえ、必要とされる医療サービスを継続的に提供していくことで患者数の確保を図ることにより、経営の健全化を進めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
経常収支比率 (%)	97.6	102.8

## ② 収益確保

収益確保を図るため、院内において「診療報酬検討会」を毎月開催（12回）し、目標を達成することができました。こうした検討を通じて、診療報酬上の施設基準の上位基準（入院基本料における、看護基準 13:1→10:1、及び看護必要度加算 2→1）を取得するとともに、関係部門が連携して請求漏れ対策や減点対策等に取り組みました。

引き続き、収益確保に向けた取組を進めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
診療報酬検討会開催回数 (回)	12	12

## ③ 費用縮減

投薬の院外処方の推進により薬品在庫量の縮減につながったことなどから、材料費、経費医業収益比率は、目標を達成することができました。

今後も、職員一人ひとりのコスト意識を一層向上させながら、材料費や経費の節減に努める必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
材料費、経費対医業収益比率 (%)	54.2	48.2

## (2) 業務改善に向けた取組

### ① 医療情報システムの導入

院内に検討会を設置し、先進病院のベンチマーキングを行いながら、当院の規模特性や収益性を勘案したシステム内容の検討を進めました。

検討作業をさらに進め、システム内容や導入工程についての院内合意を形成したうえで、早期にシステムを導入する必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
システム導入の検討	検討	検討

### ② 休止中の施設活用の検討

病院の理想像等を検討する「夢プロジェクト」を院内に設置し、意見交換を進めていますが、具体的な検討までには至っていません。

今後、「夢プロジェクト」のなかで、病院のありたい姿を意見交換しながら施設の有効活用についても検討を進めます。

目標項目	H25 目標	H25 実績
休止中の施設の活用方法の検討	検討開始	未着手

### ③ 患者満足度の向上

院内接遇委員会を中心として、接遇研修の開催及び接遇チェック表を活用した全職員参加の定期的な評価や接遇月間目標の設定などに取り組み、職員一人ひとりの接遇能力の向上に努めました。

また、患者や地域住民の皆さん及び職員から寄せられた提案等を実現できるよう、ワーキンググループ活動等を通じた業務改善に取り組みました。

この結果、前年度より患者満足度は向上（H24 年度 76.0%→H25 年度 81.2%）しましたが、目標達成には至りませんでした。

これらの取組を引き続き推進することで、患者満足度の向上に努めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
患者満足度 (%)	83.0	81.2

## 第3章 県立病院課

### 平成25年度の取組成果と残された課題（総括）

各県立病院がそれぞれの役割及び機能を十分に発揮し、県民に良質で満足度の高い医療を安定的、継続的に提供できるよう、医師、看護師の確保や各病院の経営改善の支援等に取り組みました。

#### 1 医師、看護師の確保

医師確保については、三重大学等への医師派遣の継続的な要請や研修環境の充実など、様々な環境整備に取り組むとともに、新たな対応策について検討していくため、県外病院の先進的な取組について情報収集を行いました。

看護師確保については、看護師を養成する大学や専門学校等を積極的に訪問したほか、合同就職説明会への参加などに取り組みました。引き続き、医師、看護師の確保に積極的に取り組んでいく必要があります。

#### 2 病院の経営面の改善・支援

(1) 県立病院課の職員が各病院の経営会議等に参画し、様々な経営課題について協働で対応していくなど、病院の経営面の改善・支援に取り組みました。

(2) 未収金については、担当者会議を定期的を開催するなど、情報の共有化を進めるとともに、発生防止と早期回収の両面からの支援を行いました。引き続き、各病院の健全な経営に向けて、積極的に支援していく必要があります。

#### 3 志摩病院指定管理者に対する指導・監督

指定管理者制度を導入した県立志摩病院について、病院事業庁長と指定管理者の代表者等で構成する「志摩病院管理運営協議会」を開催（2回）し、診療体制の回復・充実に向けた意見交換を行い、対応策について実施を求めるとともに、指定管理者から毎月提出される業務報告により経営状況を把握し、必要となる改善策の実施等について要請を行ってきました。

また、県立志摩病院の状況説明と今後の病院運営への地域の意見の反映を目的として、平成26年1月に「県立志摩病院に関する地域の皆さんとの懇談会」を志摩市内で開催しました。

引き続き、指定管理者に対して適切に指導・監督を行っていくことにより、診療体制の回復・充実を着実に図り、志摩地域の医療の充実につなげていく必要があります。

## 平成25年度の目標に対する成果と課題

### 1 重点的な取組

#### (1) 医師、看護師の確保

医師確保については、三重大学等への医師派遣の要請を継続的に行うとともに、県外病院を視察し、先進的な取組を調査しました。引き続き、三重大学等へ医師派遣の要請を行っていくとともに、平成25年度の他県調査を踏まえて、合同就職説明会や広報媒体の活用など、医師確保のための新たな方策を検討していく必要があります。

看護師確保については、看護師を養成する大学や専門学校等を積極的に訪問したほか、合同就職説明会への参加などに取り組みました。引き続き、看護師確保に向けた取組を進めていく必要があります。

また、医師、看護師の確保・定着等を図るため、図書整備や学会等研修参加経費の支援など、研修環境の充実等に取り組みました。引き続き、こうした環境整備を継続していく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
常勤医師充足率 (%)	80.0	84.8
看護師充足率 (%)	100.0	104.8

### 2 役割及び機能の充実に向けた取組

#### (1) 戦略的な経営の推進

病院事業庁経営会議等を通じて病院の運営状況を的確に把握・分析しつつ、各病院に対して、戦略的な経営の推進に資する企画提案を行うとともに、国、県の医療政策の動向や病院運営にかかる先進的な取組などの情報を収集し、病院に提供しましたが、提供数の目標は達成することができませんでした。

今後、国において、「地域医療構想」の策定や「病床機能報告制度」の創設など、医療政策面での新たな展開が進められていくことから、引き続き、適切なタイミングで適切な情報を収集・提供していく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
情報提供数 (件/月)	2.0	1.1

#### (2) 人材の確保・育成

##### ① 医師の確保

医師確保については、引き続き、三重大学等へ医師派遣の要請を行っていくとともに、平成25年度の他県調査を踏まえて、合同就職説明会や広報媒体の活用など、医師確保のための新たな方策を検討していく必要があります。



目標項目	H25 目標	H25 実績
常勤医師充足率 (%)【再掲】	80.0	84.8

## ② 看護師等の確保・定着

看護師を養成する大学や専門学校等を積極的に訪問したほか、合同就職説明会への参加などに取り組みました。また、看護師の段階的な能力開発プログラムである「キャリアラダー」の運用や日本看護協会が認定を行う「感染管理認定看護師」の資格取得の支援などに取り組みました。引き続き、看護師の確保・定着に向けた取組を進めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
看護師充足率 (%)【再掲】	100	104.8

## ③ 職員の専門性の向上

県立の5つの医療機関で構成している「看護職員連携協議会」(事務局:県立病院課)が実施する様々な教育・研修事業や医療安全に関する活動等を通して、医療従事者が専門的な知識や技術を継続的に習得・向上できるよう支援しました。

また、事務職員についても、経理、企画、医事、労務管理等、経営の健全化や安定化を図るための能力向上に資する研修等に計画的に参加できる環境づくりを進めました。

引き続き、職員の専門性を向上、維持していくため、職員の意識を高めながら、有効な研修の機会を拡充していくことが必要です。

目標項目	H25 目標	H25 実績
能力向上にかかる研修参加回数 (回)	24	26

## 3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組

### (1) 経営の健全化及び業務改善

#### ① 病院の経営面の改善・支援

病院事業庁長と各県立病院長(志摩病院を除く)等による三重県病院事業庁経営会議を開催(5回)し、経営状況や現状の取組等の情報共有を図りました。また、各病院に対して病院事業全体の経営状況について説明するとともに、各病院において開催されている経営会議に県立病院課職員が参加するなど、病院との連携を密にしながら、様々な経営課題についての支援に取り組みました。

また、平成26年度予算・決算から適用される地方公営企業会計基準の見直しに対応するため、平成26年1月に財務会計システムの改修を行いました。

未収金については、定期的に担当者会議を開催(4回)し、各病院間の現状

や取組状況を共有しながら、発生防止・早期回収に向けた取組・支援を進めました。

引き続き、各病院と緊密に連携し一層の経営改善に努めていく必要があります。

目標項目	H25 目標	H25 実績
経常収支比率 (%)	100.1	100.7

※こころの医療センター、一志病院及び県立病院課を合わせた数値

## ② 志摩病院指定管理者の指導・監督

指定管理者制度を導入した県立志摩病院について、病院事業庁長と指定管理者の代表者等で構成する「志摩病院管理運営協議会」を開催（2回）し、診療体制の回復・充実に向けた意見交換を行い、対応策について実施を求めるとともに、指定管理者から毎月提出される業務報告により経営状況を把握し、必要となる改善策の実施等について要請を行ってきました。

また、県立志摩病院の状況説明と今後の病院運営への地域の意見の反映を目的として、平成26年1月に「県立志摩病院に関する地域の皆さんとの懇談会」を志摩市内で開催しました。

引き続き、指定管理者に対して適切に指導・監督を行っていくことにより、診療体制の回復・充実を着実に図り、志摩地域の医療の充実につなげていく必要があります。



県立志摩病院に関する地域の皆さんとの懇談会  
平成26年1月24日開催

目標項目	H25 目標	H25 実績
1日平均入院患者数 (人/日)	218.5	206.0
1日平均外来患者数 (人/日)	272.6	301.9

## (2) 県立病院改革にかかる取組

県立病院改革については、健康福祉部の検討状況を踏まえつつ、一志病院については、家庭医療を基本とした取組を関係者に説明するとともに、こころの医療センターについては、病院経営等についての先進事例調査などを行いました。今後とも、病院事業庁として必要な対応を進めていきます。

## 用語解説

### あ行

#### アウトリーチ（サービス）

医師、看護師、精神保健福祉士など医療・福祉関係者が患者のもとに直接出向いて心理的なケアや必要とされる支援を行うこと。

### か行

#### 家庭医（総合診療医）

患者の年齢、性別、疾患などに関わらず、地域住民の健康を支える医師のこと。患者や家族と密接な連携を保つことで、予防、治療、リハビリテーションなどを行う。

#### 家庭医療

総合的に患者を診ること。プライマリケア、総合診療等さまざまな用語が用いられ、また、さまざまな概念、解釈が存在している。

#### 寛解（率）

病気の症状がほとんどなくなった状態のこと。（そのようになった率）

#### キャリアラダー

キャリアデザインの実現を図れるよう、キャリア向上の道筋を設定し、専門知識や技術を段階的に習得する機会を提供するキャリアアップのためのしくみのこと。

#### ケアマネージャー

介護支援専門員のこと。介護が必要な人のために、介護サービスだけでなく、家族介護やその他地域サービスを組み合わせた「サービスの利用計画」を作成し、要介護高齢者等が自立した生活を送ることを援助する専門職のこと。

#### 経常収支比率

「(医業収益+医業外収益) / (医業費用+医業外費用)」で、比率が高いほどよい。

#### こころしっとこセミナー

県民の皆さんに精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるため、こころの医療センターが企業や団体等の依頼に応じて実施する出前講座のこと。

#### コメディカル

医師・看護師以外の医療従事者のこと。（看護師も含めてコメディカルという場合もある。）

### さ行

#### 在宅医療

患者の居宅で行う医療のこと。医師が診療する訪問診療、看護師が行う訪問看護等がある。

#### 材料費、経費対医業収益比率

「(材料費+経費) / 医業収益」で、比率が低いほどよい。

## 作業療法

身体または精神に障がいのある人に対し、主体的な生活が獲得できるように諸機能の回復と維持、さらに開発を促す作業活動を用いて治療や指導、援助を行うこと。

## 指定管理者制度

公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとする営利企業、財団・社団法人、NPO法人などの法人やその他の団体に包括的に代行させる制度のこと。

## 診療報酬

保険診療における医療サービスの公定価格のこと。医療行為ごとに診療報酬点数に基づき点数が付けられ、1点が10円として計算される。

## 精神科急性期医療

精神疾患発症初期の急性期に、緊急的に処置または対応する医療体制のこと。

## 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業

地域社会への移行が見込める精神障がい者（長期入院患者）が、地域で生活していける社会をめざして、地域関係機関の連携のもと退院支援等を行う事業のこと。

## 精神保健指定医

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第18条に基づき資格が認定される精神科医師のこと。

精神科においては、障がい者の適切な医療を受ける権利を擁護するために、精神障がい者の人権に配慮した適切な医療・処遇を強制する必要があるが、この医療行為と人権への微妙な配慮に迫られる極めて重要な職務の全責任を負う存在として位置づけられている。

## 全人的な医療

人間を、身体や精神、心理などの一側面のみから見るのではなく、人格や社会的立場なども含めた総合的な観点から捉えて、身体的な治療に終始しない総合的医療をそれぞれの患者に応じて行うこと。

## 専門看護師

日本看護協会専門看護師認定試験に合格し、より困難で複雑な健康問題を抱えた人、家族、地域等に対して、より質の高い看護を提供するための知識や技術を備えた看護師のこと。

## 措置診察

精神障がいがあり、自傷他害のおそれがあるとみなされる場合、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第27条及び第29条に基づき、強制入院させるかどうか判断するために行われる診察のこと。2人の精神保健指定医によって行われる。

## た行

### デイケア

高齢者や障がい者などが通院し、リハビリテーション（娯楽や作業を含む。）や日常生活などを行うこと。

## な行

### 認知症疾患医療センター

認知症の専門治療、周辺症状の急性期対応、身体合併症への対応、専門医療相談、地域の医療・介護関係者への研修等を行い、地域における医療と介護の連携の拠点として都道府県から指定を受けた機関のこと。

### 認定看護師

日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することを認定され、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う看護師のこと。

## は行

### 訪問看護

看護師等が居宅を訪問して、療養上の世話または必要な診療の援助を行うこと。

### 訪問診療

通院が困難な者や介護が必要な者、退院後のケアが必要な者に対して、医師等が居宅を訪問して定期的かつ計画的に行う医療のこと。

※「往診」は、通常のがんが悪くなったときの臨時的な診療。

### 訪問薬剤指導

通院が困難な者に対して、薬剤師が居宅を訪問して患者又はその家族等に服薬指導や服薬支援等を行うこと。

### 訪問リハビリテーション

要介護者を対象に理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などが居宅を訪問し、理学療法や作業療法等によるリハビリテーションを行うこと。

## ま行

### 三重県精神科救急医療システム

休日や夜間に発症した急患の診察や入院に対応するための、三重県内の13精神科病院による北部と中南部の2ブロックでの毎日輪番制や、同じく精神科病院の輪番制での24時間（休日等を含む。）の電話相談窓口設置体制のこと。

## や行

### ユース・メンタルサポートセンターM I E (YMSC-MIE)

若者の精神疾患の早期治療を行うために、平成20年10月にこころの医療センター内に設置した、学校やかかりつけ医と連携した支援センターのこと。

## ら行

### リカバリー

精神障がいのある人が、それぞれ自分が求める生き方を主体的に追求すること。